

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 FLOW上牧		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 10日		~ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44人	(回答者数) 40人
○従業者評価実施期間	2026年 2月 10日		~ 2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>OT(作業療法士)・PT(理学療法士)・保育士等の専門の職員が多く配置されている事。</li> <li>事業所内で研修が実施する機会が多くあるので、スキルアップにつながる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの専門性を学習する機会を持ち、情報の共有を意識して行っている。</li> <li>保護者に説明できるように簡単な遊びのねらいについてのコメントを分かりやすくまとめたモノを作成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの専門性をもっと深く理解できるように研修を積む。</li> <li>それぞれのお互いを理解できるようにしっかりとコミュニケーションが取れるような雰囲気作り。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別療育は親子同伴で行っている。</li> <li>集団療育も並行して行っている。3歳までのお子さんには親子療育を行っている。(保護者支援に力を入れやすい。また保護者の子ども理解が高まる。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に集団ではそれぞれのご家庭の状況や子どもさんの特徴を踏まえた上での支援方法を保護者と一緒に考えるようにしている。(例えば、親子療育が難しいご家庭には毎回の親子療育を月2回は分離して預かる。また年長のお子さんであっても分離不安が高いお子さんには保護者の可能な限り一緒にいてもらうよう相談させてもらう。など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員それぞれのスキルアップの為の研修への参加。</li> <li>関係機関との連携を密に出来るようにしていく。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>会社内にST(言語聴覚士)の個別療育があり、相談支援事業や保育所等訪問などの事業もあり、こどもの情報共有がしやすいのでいろいろな場面での子どもの様子が分かること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの担当の職員と情報交換できる様に連携を密にする。</li> </ul>	

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>一つずつの事業所は小さく、集団療育をしているので、感染症等で全員出勤ができなくなる可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己管理の徹底が不十分であったり、業務等の時間配分等をもっと精査していかなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の体調管理への意識向上。</li> <li>業務・環境等の働きやすさを整備していけるような雰囲気作り。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>療育室に大きな柱がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部屋の真ん中の柱は子どもがぶつからないように保護マットを巻いたり、また活動中は子どもの動きを予測しながら安全確保に努めているが、人員不足や予測ミスなどで危険なことも稀に起きる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容に沿った動き方ができるような打ち合わせを今までと同じように丁寧に随時行う。また個々のスタッフのスキルアップを強化する。</li> <li>活動プログラムの立案に職員の案を出し合えるほどできるだけ話し合いの時間を持つ。</li> </ul>
3			

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		FLOW上牧		公表日		2026年 3月 31日		利用児童数		44人		回収数		40人	
		チェック項目				ご意見		ご意見を踏まえた対応							
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない										
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	40												
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	34	4	1	1									国の定められている人員配置数は満たしています。不安がある際は職員にお伝えいただけると対応できるよう努力してまいります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	36	4											事業所内に段差はありますが、子どもさんの成長段階に合わせて人的支援と手作りの物でサポートしています。また大きな柱が中央にあることも十分注意しながらこれからも配慮していきたいと考えています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	40												
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	38	2											保護者様からの聞き取りと本人様の様子を捉えて支援の内容を今後とも保護者様と共有して取り組んでいきたいと考えています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	38	1		1									支援内容に関して理解いただけるよう今後も丁寧に説明していきます。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	39			1									こどもや保護者のニーズを理解し個別支援計画を作成し、保護者様に丁寧にご理解いただけるよう説明する努力をしてまいります。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	27	1	1	11				放課後デイサービスは受けていないのでわからない					小学生から放課後等デイサービスに切り替わります。未就学のお子様には児童発達支援のガイドラインに沿った計画を立て支援内容も適切に設定しています。具体的な支援内容でご不明な点や説明不足などがありましたら再度説明させていただきます。いつでも気軽にお声掛けいただきたいです。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	25	2	1	12									就学前のお子様は児童発達支援の計画書に添って支援しております。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	36	1		3									利用児さんの活動への取り組み方や参加の様子などを考慮して活動内容は考えて提供しています。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	7	4	13	16									事業所内の利用時間に地域の他の施設との交流はありません。近所の公園で遊んでいる時に地域のお子さんたちに出会うことはあります。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧に説明がありましたか。	37	2		1									運営については重要事項をご確認いただいています。他も契約時に説明させてもらっていますが、いつでもご質問には答えさせてもらっています。お気軽にお尋ね頂きたいです。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	28	1	1	10									未就学児は「児童発達支援」の計画書を提示し確認させていただいています。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	33	1		6									今年度上牧においては年中(4歳児)の保護者向けに「進路について」の勉強会を実施しました。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	39			1									これからも子ども様の様子について共通理解が持てるように情報共有に努めてまいります。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	36	2		2									いつでもご不安やご相談にお応えしたいと考えていますので、モニタリング以外のタイミングでもお声掛けいただけますようお願いいたします。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	40												
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	22	3	1	14									保護者同士の交流会や、きょうだいの交流の機会がもう少し増えたらいいなと思います。保護者同士の交流の機会や兄弟同士の交流に関しては保護者様全体の意見を聞きながら努力してまいります。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	35			5	ご家族様のご相談には適切に対応するように心がけております。どうぞご相談下さい。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	39	1			子どもや保護者様との意思疎通や情報伝達に益々努めてまいりたいと思います。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	36			4	毎年事業所アンケートを年度末にご協力いただき、結果をホームページに配信させていただいています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	39			1	個人情報の取り扱いには適切に対応させていただいています。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	36			4	事業所内で事故防止・緊急時・防犯・感染等の対応マニュアルは作成しております。その都度公式ライン等で発信させていただいています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	33			7	事業所内で年2回、訓練を実施しております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	35			5	安全対策について事業所内で子どもの安全確保のために日々職員間で周知事項を確認し安全が守れるよう努力しています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	33			7	事故があった際には保護者様にはその都度状況を確認させていただいています。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	39	1			安心感を持てるように十分配慮して支援できるよう努めてまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	36	3		1	楽しく通所してもらえるようにプログラム設定や環境設定をしていきたいと思えます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	39	1			連絡ノートに書いていても見たかどうか分かりづらいので、何かしら記入してもらえたらうれしいです。
							大変失礼しました。活動中の状況によりノートへの答えが難しい時もありますが、できるだけ口頭や文面での返信ができるよう努力してまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		FLOW上牧				公表日	2026年3月31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5			・玄関前の段差はあるが、バリアフリー化は難しく、マンパワーで対応し配慮して行きたいです。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		・マット等で仕切るなど環境設定し、場所の確保しています。 ・利用児の状況によって個別対応し必要な時は空き部屋や区間を設定しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		時間の隙間を活用し職員同士が振り返る機会を取っています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	第三者による外部評価は行っていません。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	2		インフォーマルなアセスメントもしていくように職員一同再度確認し、周知していくよう努力します。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5			・時短職員との打ち合わせが出来ていない事もあります。兼務状況によりできないときもあります。時間の使い方を検討していきたいです。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5				
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1			・朝1番の個別療育の打ち合わせの時間が少ないのは努力して時間を作るようにしていきたいです。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5				
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1			振り返りはできているが、検証し、改善に向けての話し合いが少ないように思います。今後次につながる振り返りをしていきたいです。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	1			・関係機関との連携は必要であれば参加していきたいです。現状のまま子どもの事をよく理解した者が参加できるようにしていきたいです。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1			・最寄りの小児科医院との連携はしています。・関係機関との連携を取るための必要な体制は今以上に整えていきたいです。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5				・保護者の意向を確認しながら移行支援を行うための体制は整え情報共有していきたいです。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	3			保護者を通して情報の共有はしています。
	28	(28～30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)					
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		5			自社にスーパーバイザーが存在するので助言等は常に受けることができる体制にあり、スーパーバイズを受けています。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		5				
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5					
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5					
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5					
	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5					

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5				
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5			・保護者同士が交流する機会は1年に1回以上は開催しています。また、保護者同伴で療育を行い子どもへの理解と保護者同志の繋がりができるような催しを企画しています。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5				
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5				
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5				
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5				
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5				
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5				
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5				
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	3			・アレルギーの確認はしていますが、医師の指示書に基づく対応までのお子さんは利用はなかったです。今後そのような事があれば保護者と相談して対応していきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5				
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5				
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5				
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5				
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5				・身体拘束を行う場面はないです。しかし職員の意識としてどういう行為が身体拘束になるのかの共通認識を深めていく必要はあると考えています。